

## 短報

### 群馬県におけるウタツグミの観察初記録

関上秀雄<sup>1</sup>・深井宣男<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>日本野鳥の会群馬：〒370-0046 高崎市江木町980 新井ビル2F  
\*(jotaka5b78159n@gmail.com)

キーワード：ウタツグミ, *Turdus philomelos*, 群馬県

### The first record of Song Thrush *Turdus philomelos* in Gunma Prefecture

SEKIGAMI Hideo<sup>1</sup> and FUKAI Norio<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>Gunma Branch of Wild Bird Society of Japan, Arai Building 2nd floor, 980 Egi, Takasaki, Gunma 370-0046, Japan  
\*(jotaka5b78159n@gmail.com)

**Abstract:** A song thrush *Turdus philomelos* was observed on 6th January 2023 in Gunma Prefecture. This is the first record of song thrush for Gunma Prefecture.

**Key Words:** Song Thrush, *Turdus philomelos*, Gunma Prefecture

#### はじめに

ウタツグミ *Turdus philomelos* はヨーロッパからバイカル湖に繁殖分布し、ヨーロッパ南部、アフリカ北部、中東で越冬する (Clement et al., 2000)。日本鳥学会 (2012) は本種を検討中の種としているが、日本では1987年以降、10例ほどの観察・撮影記録がある (渡部ほか, 2019)。群馬県では本種は記録されていないが (日本野鳥の会群馬, 2020)、筆者のひとり関上が、2023年1月に本種1個体を玉村町で観察・撮影した。これが群馬県におけるウタツグミの初めての記録であると思われるので報告する。

#### 観察記録および考察

2023年1月6日13:46頃、群馬県佐波郡玉村町にある岩倉自然公園の一角で、鳥類の観察・撮影中に本個体を発見した。観察・撮影は約10 mの距離から、400 mmの望遠レンズ付きデジタル一眼レフカメラ (Canon, EOS90D) を用いておこなった。

岩倉橋西側の水辺の森公園や同橋東側のキャンプ場周辺などを含む岩倉自然公園は、烏川の左岸に広がる長さ約1.5 km、幅150 mほどの公園で、ゴルフ場や河川敷の農耕地などが隣接し、その北側には水田と民家が広がっている。公園内には樹木が多く、樹高15 mほどのアカマツ *Pinus densiflora* やケヤキ *Zelkova serrata* などの高木のほか、アオ

キ *Aucuba japonica* などの低木、メダケ *Pleioblastus simonii* の小さな竹林などもあるが、林床は整備されており、藪が発達しているところは多くない。本個体は、公園内を流れる小川でツグミ *T. naumanni eunomus* とシメ *Coccothraustes coccothraustes*、ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* が水場にいたところに出現し、発見の1分後、13:47頃に何かに驚いて飛び去ったため見失った。その後も同じ場所で観察を続けたが、翌日以降も含めて、本個体が出現したのはこの1回だけだった。

本個体は一見してツグミ類の体形をしており、近くに見たツグミと比較して、やや小さい程度の大きさに見えた (図1)。頭上から上尾筒にかけての体上面は灰色味を帯びたオリーブ褐色で、背には不明瞭な暗色小斑があり、腰はやや灰色味が強かった (図1, 2a, 2b)。耳羽は体上面と同様の色の地に淡パフ色の小斑が多数散在し、頭上や後頸より淡色に見えた。耳羽を縁取るように暗色の小斑があり、同じ色の顎線とともに断続的な細い帯状になって見えた。眼には細く白い囲眼羽があり、特に眼の後方部分で明瞭であった。過眼線と眉斑は不明瞭であったが、眼より前の部分は眉斑状に淡色に見えた (図1)。腮から下尾筒にかけての体下面の地色は白色で、胸側から脇にかけての狭い範囲には黄褐色味があった。胸、脇、腹には矢じり型または長円形の黒色斑が多数あった (図1)。雨覆は灰褐色で、中雨覆と大雨覆の先端にはパフ色の淡色斑があった。内側2枚の大雨覆は内弁の黒灰色味がやや強く、先端の淡色斑は小さくて外弁先端に限られていたのに対し、その外側の大雨覆は

羽の長さが内側2枚よりわずかに短く、先端の淡色斑は内側2枚より明らかに大きくて内弁先端にまで広がり、羽軸の部分で基部に向かって食い込む形状をしていた。中雨覆先端の淡色斑も外側の大雨覆と同じ形状をしていた(図2a)。初列大雨覆は上面と似たオリーブ褐色をしており先端部が暗色になっていた。初列風切、外側次列風切も同様であったが、外弁は淡黄褐色で、翼をたたんでいる時は外弁の色が目立った(図1, 2a)。下雨覆は淡い橙色であった。尾羽は上面よりやや茶色味を帯びたオリーブ褐色で、白色部はなかった(図2b)。得られた画像が鮮明ではなかったが、尾羽の欠損や著しい摩耗などは認められなかった(図2b)。嘴は上嘴が灰黒色、下嘴は淡黄色で先端は灰黒色であった(図1)。跗蹠はややピンク色を帯びた淡い肉色で、趾は跗蹠よりやや暗色であった。脚に付された足環や趾のこぶなどは認められなかった(図1)。また、観察中に本個体が声を発することはなかった。

体上面がほぼ一様にオリーブ褐色で、体下面が白色で胸や腹に矢じり型または長円形の黒色斑が多数あり、中雨覆と大雨覆先端に淡色斑があるなど、羽色がウタツグミとよく似ている種としては、オリーブチャツグミ *Catharus ustulatus* やハイイロチャツグミ *C. minimus* の幼鳥、クロツグミ *Turdus cardis* の雌、ワキアカツグミ *T. iliacus* の幼鳥、ヤドリギツグミ *T. viscivorus*、チベットウタツグミ *T. mupinensis* が挙げられる(Clement et al., 2000; Collar, 2005)。このうち、オリーブチャツグミやハイイロチャツグミはツグミより一回り小さく、体下面の黒斑が脇や下腹にはないこと、翼下面に白と黒の特徴的なパターンを生ずることで本個体とは異なる。クロツグミの雌は脇が広範囲に橙色であり、眉斑が本個体よりさらに不明瞭である点が異なる。ワキアカツグミの幼鳥は眉斑が明瞭で、下雨覆と脇が赤褐色であることが本個体と異なる。ヤドリギツグミはツグミより一回り大きく、下雨覆が白色で、外側尾羽に白色部があることが本個体と異なる。チベットウタツグミは眼の下と耳羽の後縁に明瞭な黒斑があり、体下面の黒斑がより大きいことが本個体と異なる(Clement et al., 2000;

Collar, 2005)。前述した本個体の特徴が、ウタツグミに似た羽色を有する他種の特徴には合致せず、ウタツグミの特徴とよく一致することから(Clement et al., 2000; Collar, 2005)、本個体をウタツグミと同定した。

本個体の大雨覆(図2a)は、その色彩と先端淡色斑の形から、内側2枚が換羽した新羽、外側の羽毛が未換羽の幼羽であると考えられた(Jenni & Winkler, 1994; Svensson, 1992)。このことから、本個体は第一回冬羽の幼鳥と考えられる。本種の雌雄は酷似しているため(Clement et al., 2000; Collar, 2005)、性別は不明である。なお、本個体には飼育個体を疑わせる尾羽の欠損や擦れ、趾のこぶなどは観察されなかったことや、警戒心が強かったことなどから、野生個体であると思われた。

## 謝辞

本稿作成にあたり、匿名の査読者の方には有益なコメントをいただいた。記して感謝申し上げる。

## 引用文献

- Clement P, Hathway R, Byers C & Wilczur J (2000) : Thrushes. Christopher Helm, London, 463pp.
- Collar NJ (2005) : Family Turdidae (Thrushes). In: del Hoyo J, Elliot A & Christie DA (eds) Handbook of the Birds of the World, Vol 10, Cuckoo-shrikes to Thrushes. Lynx Edicions, Barcelona, p. 514-807.
- Jenni L & Winkler R (1994) Moulting and Ageing of European Passerines. Academic Press, London, 224pp.
- 日本鳥学会 (2012) : 日本鳥類目録 改訂第7版. 日本鳥学会, 三田, 438pp.
- 日本野鳥の会群馬 (2020) : 群馬県鳥類目録 改訂版. 日本野鳥の会群馬, 高崎, 94pp.
- Svensson L (1992) Identification Guide to European Passerines, fourth, revised and enlarged edition. Published by the author, Stockholm, 368pp.
- 渡部良樹・榎本千鳥・飯島博幸 (2019) : 神奈川県相模原市におけるウタツグミ *Turdus philomelos* の記録. 日本鳥学会誌, 68 (1) : 85-90.



図1. 群馬県玉村町で観察されたウタツグミ. 奥の個体. 手前はツグミ, 左はヒヨドリ. 2023年1月6日, 関上秀雄撮影.

Fig. 1. Song Thrush observed in Tamamura, Gunma Prefecture. Song Thrush (back) with Dusky Thrush (front) and Brown-eared Bulbul (left) . Photographed on 6th January 2023 by SEKIGAMI Hideo.





図2. 群馬県玉村町で観察されたウタツグミの雨覆のアップ (a) と飛翔時 (b). 白矢印の内側が換羽済の新羽, 外側が未換羽の幼羽である (a). 下雨覆は淡橙色で尾羽に白斑はない (b). 2023年1月6日, 関上秀雄撮影.

Fig. 2. Closeup of wing coverts (a) and in flight (b) of the Song Thrush observed in Tamamura, Gunma Prefecture. Greater-coverts inside of the white arrow are molted new, and Greater-coverts outside of the white arrow are non-molted juvenile feathers (a). The under-coverts are pale orange and there are no white spots on the tail feathers (b). Photographed on 6th January 2023 by SEKIGAMI Hideo.